

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和4年度研究報告書

研究課題名	福島県外のライフイベントを迎える世代に向けた放射線リスクコミュニケーションモデルの構築と実践 若手研究項目「放射線リテラシーに関するクラスター判定式の開発と介入効果検証」
令和4年度研究期間	令和4年4月1日～令和5年2月28日
研究期間	令和4年度 ～ 令和6年度（1年目）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	五月女 康作	福島県立医科大学・准教授
分担研究者		
若手研究者	三枝 高大	福島県立医科大学・助教

キーワード	放射線への態度、心理尺度、個人差
-------	------------------

本年度研究成果
<p>I 研究背景</p> <p>「福島県」と“ライフイベントを迎える世代”の偏見・誤解の払拭・予防の手段が求められている。そこで、本若手研究では、偏見・誤解の払拭・予防の手段として幅広い世代への周知と同時にターゲットを絞った草の根的な教育を実現するために、人々の持つ放射線への態度に応じた分類法(セグメント判定式)を開発し、放射線への態度分類に対応した教育マニュアルの妥当性検証、分類別放射線リスクコミュニケーションの効果検証を行う。本年度においては、人々の「放射線への考え方」を判定して特徴ごとに分別できる「クラスター判定式」の獲得のため、分類法(セグメント判定式)の開発に着手した(初年度～次年度第1期)。</p> <p>II 目的</p> <p>本年度は、放射線への態度の個人差測定を可能とする心理尺度を作成することが目的であった。ポピュレーションアプローチを前提とした教育的介入を効果的に行うためには、「放射線への態度」の個人差に基づいたセグメントを行う必要がある。セグメントを行うにあたり任意の特徴をもつ集団をつくり出すために用いられる心理尺度は個人差を測定しうる次の要件を備えていなくてはならない¹⁻²⁾。すなわち、理論的定義に基づいた内容的妥当性、項目内容の分類、回答のばらつき、分布、妥当性・信頼性の担保、一般化可能性の確保である。しかし、既存の「放射線への態度」を扱った調査で用いられた質問項目は、セグメントのための個人差測定を目的として作成されたものではない。そのため、本研究では個人差測定の要件を満たす心理尺度を作成する。</p>

III 研究方法

要件を満たす尺度の条件のうち、第一に、資料調査に基づく項目内容の精査(質的検討)、KJ法による項目の分類の精査(質的検討)を行うことで理論的定義に基づいた項目プールの作成および項目内容の分類を行うことで内容的妥当性を確保した。第二に、予備調査の統計的分析により、項目プールの中から個人差の測定に適した回答のばらつき、任意の分布を有する心理尺度項目候補を選出した。本研究は、公益社団法人日本心理学会が発行する『倫理規程』に則って安全配慮および個人情報の保護が行われた上で実施された。

IV 研究結果、考察及び今後の研究方針

研究方法にて述べた2点の検証を通じて、本調査において大規模サンプルによる妥当性・信頼性の検証、一般化可能性、「放射線への態度」の個人差の特徴を確認するための前提要件を確認した。これらの結果を踏まえ、個人差を測定しうる要件として信頼性・妥当性を備えた「放射線への態度」の個人差を測定する尺度完成のための複数の調査を現在実施中である。

V 結論

現在までに個人差を捉える要件を備えた心理尺度項目が準備されている。R5年度中に、本年度末までに行った大規模サンプルによる諸調査から得られた多母集団データを統計的に分析し、結果を統合する。分析にあたっては妥当性指標との関連を確認し、再検査信頼性の検証を行うとともに、異なる年代、異なる性別、異なる地域の人々における測定不変性を確認する。これらにより、信頼性と妥当性を備え、年代、性別、地域を超えた「放射線への態度」の個人差を把握しうる心理尺度を投稿・発表する予定である。

引用文献

1. Borsboom D. *Measuring the mind: Conceptual issues in contemporary psychometrics*. Cambridge University Press; 2005.(ボースブーム、 D. 仲嶺 真 (監訳) 下司 忠大・三枝 高大(訳). *心を測る——現代の心理測定における諸問題——*. 金子書房、 2022).
2. Zumbo BD, Chan EK. *Validity and validation in social, behavioral, and health sciences*. *Social Indicators Research Series*, Vol. 54. Cham: Springer International Publishing, 2014.